

# Funehiki High School News vol.114

## ◆就職内定率 96.1%、進学内定率 94.4%

1月19日現在、本校3年生の就職内定率は96.1%に、進学内定率は94.4%に達しました。女子は就職・進学ともに100%を達成することができました。進学では、国公立大学合格者3人を含め、18人が4年制大学への進学を決めました。

今回は、(株)福島銀行本部への内定を勝ち取った早川真由子さん(3年3組、常葉中出身、写真)にインタビューしました。

Q 福島銀行に就職しようと思ったきっかけは?

今まで銀行の仕事は、お金を出し入れしたりお客様に融資したりすることしか知りませんでした。でも、応募前見学に参加した際、福島銀行は地域のイベントに参加するなど、地域とさまざまな関わりを持っていることを知り、ぜひ働いてみたいと考えようになりました。

Q 内定通知をいただいた時はどのように感じましたか?

内定をいただいた時は、とても嬉しかったです。でも、それで終わりではないので、これから入社までにしなければならないことにしっかりと取り組んでいきたいと思いました。

Q これからの目標は?

地域の復興、活性化に努めたいと考えています。福島銀行で働くことで、地域の方々と深く関わりながら、お客様のご要望に応えつつ、地域の活性化のために尽力したいと考えています。

Q 後輩にメッセージをお願いします。

就職試験の面接のために、福島銀行がどんな会社なのか、どんなことをしているのかをよく調べました。だからこそ、面接でしっかりと話すことができました。実際の面接では、とても緊張しますが、笑顔で話した方が面接官の方も明るく返してくださると感じました。試験までの準備をしっかりと行うこと、面接練習を重ねること、笑顔で心がけることが大切だと思います。



## ◆賞状伝達式が行われました



12月20日、第4回賞状伝達式が行われました。今回は、南東北総体2017福島県開催競技種目ポスター原画優秀賞を受賞した堀越さやかさん(2年1組、船引南中出身)や、平成28年度税に関する高校生の作文優秀賞を受賞した吉田有花さん(3年3組、都路中出身、写真)など、多数の生徒が表彰を受けました。その他にも文部科学省新体力テストA判定の生徒にも認定証が渡されました。3学期には英語検定や漢字検定も予定されています。これからも資格取得や上位大会入賞等を目指して努力を続けてほしいと思います。

## ◆デュアル実習成果発表会にぜひご来場ください

2月21日に今年度のデュアル実習成果発表会を行います。日頃の実習風景の紹介、生徒によるプレゼンテーション、発表などを行います。また、田村市復興応援隊の佐原隊長による講演会も予定しています。発表会には一般の方もご参加いただけますので、皆様ぜひご来場いただき、生徒たちの成長をご覧ください。

●日時…2月21日(火)午後1時30分~午後3時45分

受付開始 午後1時

●場所…市文化センター

詳細については、下記までご連絡いただくか、本校のホームページをご覧ください。



▲昨年度の発表会の様子



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233  
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...[school@funehiki-h.fks.ed.jp](mailto:school@funehiki-h.fks.ed.jp)



## 人生の旅

John Brandt

ジョン・ブランドさん  
(アメリカ合衆国  
ミズーリ州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	44

これまでの人生で、「今から5年後、10年後に自分がどこにいるか、今の僕に見えるか?」という悩ましい質問が、絶えず僕を追いかけてきていました。

大学時代を振り返ると、この質問がいつも僕の心を占めていたと言ってもいいでしょう。僕は大学でメディア・コミュニケーションを専攻していたので、卒業後は映画かメディアに関連する仕事をしている自分を想像していたのです。最終学年をカリフォルニア州ロサンゼルスでインターンシップ(職場体験)をして過ごし、大学を卒業して望みどおりの職業に就くことができる見通しが立ちました。家族全員が集まって僕の大学卒業見込みを祝ってくれた光景をよく覚えています。

数年間ロサンゼルスで学生生活をした僕が、ミズーリ州の実家にいったん帰るため、ロサンゼルスを離れる直前のことです。英語教師のコーディネーターをしているタッカーさんから、日本で英語を教える機会があることを聞きました。

その時、僕は強いインスピレーションを受けました。日本は、地球の反対側にある国です。英語とは違う言葉が話す国です。生まれ育った居心地の良いアメリカとは異なる文化の中で、生活することに慣れなければなりません。僕にとって都合の悪いことばかりでした。でも、僕が就こうとしていたメディアの仕事は、僕じゃなくてもできる仕事です。

それ以降、日本で英語を教える機会について深く考えるようになり、日本の文化を夢中で勉強し始めました。僕は文章を書くのが趣味で、物語が大好きです。日本には物語の豊かな歴史があります。子どもの頃、英訳された日本の本や漫画を読んだことがありました。日本で作られたたくさんのテレビゲームをしたり、日本の映画製作会社が作った多くのアニメや映画を見たりもしました。日本の映画やアニメは、後に大学でも学ぶこととなります。

実は、アメリカの外側にある国——他国である日本が、僕の人生に大きな影響を与えていたのです。そのことに気が付き、日本に来る機会について、いっそう真剣に考えるようになりました。日本についてもっと調べたり、家族や友人と話し合ったりした後で、僕は与えられたその機会に挑戦することを決めました。

日本に来てから約8カ月になります。僕は今、英語教師として大きな達成感を感じています。アメリカでは出会うことのなかった新しい友人もできました。雄大で繊細な日本独特の自然の美しさを肌で感じています。けれども、この驚くべき国、日本の表面に、ほんの少し触れただけであることを、僕は知っています。



今から5年前、10年前に、もしも自分がどこにいるかと聞かれたら、「日本にいる」という答えは僕の中にはなかったはずですが。

でも、僕が今ここにいることは、人生がいかに予想のつかないものであるかを証明していると思います。個人的な経験から言えば、人生は時に困難で、不確実性に満ちています。

しかし、もしもあなたが旅をすることをいとわないならば、多くの素晴らしい経験があなたに驚きと発見を与えてくれるでしょう。